

# 八中3年人権だより

徳島市 八万中学校  
3年生 第13号  
2024年10月9日  
編集・文責 吉成正士

10月4日、学年全体人権学習を行いました。今回のテーマは就職差別です。義務教育を終えるにあたり、社会に出ることを想定して、ぜひともやっておきたいテーマです。

今回の資料は「私の目を見て！」ですが、それ以外にも各教室で、「部落地名総鑑」、動画「いろめがね」視聴、「許せない就職差別」、「就職差別につながるとされる14項目」を学んできています。その総まとめの時間でした。班ごとに共有している姿はほほえましかったし、発言に立つ姿はりりしかったし、「ああ、もう3年生なんだなー」と、感傷的になってしまいました。

皆さんへの質問は次の3つでした。

1. 勝子さんのように、自分の存在と同じくらい大切にできたことを否定的に言われたら、あなたはどんな気持ちになりますか。そのようなことは今までにありましたか。人権学習を否定的に言われたらどうでしょう。
2. 勝子さんはこの後どうしたと思いますか。あなたの進路のことで不安や悩み、つらいことがあれば、あなたはどうするでしょう。そのような友人がいれば、あなたはどうしますか。
3. これから新しく出会う人に、中学時代の人権学習を伝えるとすれば、あなたはどう伝えますか。何を伝えたいですか。みんなの発言を聞いて感じたことを返していきましょう。

今回も、皆さんの感想や、鍵になる発言を中心にまとめてみました。どうぞ、ご覧ください。



## 安心を生む「言葉のリレー」

■知らない間に人を差別してしまっている、または傷つけてしまっていることを恐ろしく思いました。また、自分も気づかずにどこかで人を傷つけたり差別発言・行動をとってしまっているのではないかと不安になりました。今回の人権学習は、「大切なものを否定されたら…」や「不安や悩みがあったらどうするか」「将来に向けて人権についてどう伝えていくか」でした。その題に添って、みんなでグループをつ

って話し合うとき、吉成先生がおっしゃっていたように、言葉の「リレー」ができていたように感じて、私だけでなく、みんなも悩みだったり不安に感じていることだったりあるんだなと安心することができました。また、みんなで話し合うことで、私のように安心した人や考えさせられたり、共感したりする人が増えていって、それがこれからの将来につながっていけるというのが、すごく良いなと思いました。次回で八中で最後の人権学習になるけど、次回は今回より人権についてもっと深く考えていきたいです。 5組UE

なかには、ひとりでも全然怖くないし寂しくない、という人もいるでしょう。けど、みんながみんなそういうわけではありません。ひとりでは寂しいし、怖いと感じる人もいるものです。私もその一人です。いつもいつも寂しさを感じているわけではありませんが、そう感じてしまうこともあります。だから、周囲からのちょっとした声かけや、笑顔などのやさしさが感じられると、ホッとします。でもそれは、もしかすると相手だってそうかもしれない。。であるならば、自分から周りの人に声かけや笑顔をふりまいた方がいい。自分がしてほしいなら、まず自分から。それが、「人を傷つけない」とか、「安心のリレー」につながっていくのかもしれない。



## 自分自身を知る学習だった

■今日の人権学習の2番「勝子さんはこの後どうしたか」という質問で、みんなそれぞれ違う意見を言っていました。その中で川上さんが、「今までと変わらずに仕事をした」と言っていて、そう思った理由が、「自分がそこにいるだけで闘っていることになると思うから」というものでした。私はその言葉を聞いて、確かにそうと言えるかもしれないと思いました。自分は闘うとなると、川上さんが言っていたように、「たいそうなもの」だと考えます。でもそんなに難しく考えなくても、闘い方はたくさんあるんだと気づきました。自分がもし部落の地域に生まれたとしても、決してそこに生まれたことが悪いわけではないから、自分らしく堂々としていればいいんじゃないかと思いました。

そして3番目の、「中学時代の人権学習をどう伝えるか」

という質問で、「自分自身を知る学習だった」と言っている人がいて、よく考えてみればそうだなと私も共感しました。大勢の人たちとそれぞれ違う意見を言ったり、聴いたりしながら、この子はそういう考えを持っているんだなと知るとともに、自分の考え方についてもよく知れる時間だったなと思いました。次回は中学生活で最後の全体での人権学習だけど、悔いのない時間にしたいです。 4組FA



■今日、全体人権学習を受けて、問1、2では、特に自分の進路の不安などによる発表が多かったと思います。私自身も高校に行くことが不安で、ほとんどが知らない人のなか友達はあるだろうか、勉強はついていけるだろうか、そもそも受かるのかなど、ぐるぐる考えてしまうときがあります。でもああやってみんなの前に立って発表してくれる子たちのおかげで、不安を抱えているのは自分だけじゃないってことに気づけ、気が楽になりました。その発表のなかで私が一番心に残ったのが、奥村さんが言っていた、「人権学習は堅苦しいものばかりじゃない」です。私たちのように日頃から人権学習にふれてこなかった人たちからすると、確かに人権学習は堅苦しく思えると思います。最初は私もそんなイメージを持っていました。でも実際は今まで話したことがなかった子ともつながれる場所でした。一人ひとりがみんな同じ問題について考えて共有し合い、高め合える素晴らしい時間だなと思います。一度にたくさんの人を動かすことは難しくても、一人からまた別の一人へとつながって続いていくことはできます。そうしたなかで私たちの中に人権のパンデミックが起きて広がっていったからこそ、ここまで成長できたんだと思います。そしてそのパンデミックが起こる火種となってくれた吉成先生、それをさらに広げてくれた人権委員の人たち、今日あらためて、みんなでつくってきたこの人権の輪が、とてもきれいだなと感じました。

5組OM

そんなふうに思ってもらえる人がいて、ホッとすると、嬉しいです。受験期の皆さんを毎年のように見ている、いつも思います。自分の悩みや不安、それぞれの悩みや不安を、ちゃんと吐き出せて共有できてるのかなって。大なり小なり、みんなが不安や悩みを抱えている。自分ひとりじゃない。なら、独りで抱え込むんじゃなく、みんなと共有すればいい。みんなと不安や悩みを分け合えばいい。それで合格するわけではないけど、すべてが解決するわけではないけど、それでも気持ちが楽になるなら、そんな時間にはきっと意味がある。そう思うのです。そのための道徳や学活の時間であり、そのための学校であり、そのための「団体戦」でないかと思うのです。そのための人権学習の時間だったのではないかと思います。

奥村さんは次のように発言してくれました。

自分自身を知るための学習だと言うと思います。いろんな人権問題を学んでいくときに、必ず自分に重ねたり、自分と対比させたりすることがあると思います。そして少しずつ自分のいいところとか悪いところとかを知っていくのだと思います。人の心を感じて、自分も喜び、感じ、そこから得られる教訓を、自分の人生に生かしていきたい

と思います。そして、柳本さんの意見を聞いて思ったことなんですけど、人と関わることが好きになるっていうんですけど、私も人権学習を通して、人と関わることが好きになれたなと思って。こういう全体人権学習とか、人権こども塾だったり、中学生集会だったりとかで。特に中学生集会だったりだと、いろんな学年の、いろんな中学校の人たちと関わって、話していく機会があるので、それで他の学校の人権学習がこうだとか、他の学校ではこういうことをしているだとか、そういうことを知っていけるので、人権学習は固いことばかりじゃないんだって伝えるかなと思います。 3組OA



人権学習は単に堅苦しいだけのものではなく、受験のように危機に陥ったとき、どうすればいいのかを教えてくれる学習でもあるのです。これからの5か月こそ、人権学習の成果が試されます。どうぞ、いろんなところに、「きれいな人権の輪」をつくってみてください。

## リスペクトをもって最後まで!

■第3回学年全体人権学習を通して私は、人権学習を他人事にしてはいけないと思いました。人権を世界のことで捉えるだけではなく、身の周りの学校や友人などの自分事にしていきたいです。私が今回キーワードと思った言葉は「リスペクト」という言葉です。理由は、人と分かち合うには、お互いリスペクトをもつことだと思います。リスペクトをもつことで、相手を尊重し合えたり、お互いを知ることができると思うからです。これからまだ大事な行事がたくさんあるけど、みんなのことを尊重し合い、一人一人にリスペクトを持っていきたいです。そしてあと少しの中学校生活を一生懸命頑張っていきたいです。 4組KJ

リスペクトとは、「尊敬する。尊重する。ありのままの相手に敬意や尊重の気持ちをもつこと。」という意味です。まず、そんな自分でいたいですね。でも時として、まず「ディスる」ことから入ることがあります。聞いて気分が悪くなります。聞きたくないし、言いたくない。自分は使いたくないと思います。それでも、感情的になったとき、ついついそんな言葉が出そうになることがあります。自分が言われて嫌だったのに。聞いて嫌な思いをしたのに。それでもやっぱり、そんな自分にはなりたくないと思います。相手をリスペクトして、励まし応援できる、そんな自分でいたいです。 (14号につづく)